研究紀要・年報

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第8号

《研究ノート》

古墳時代肝属平野における地下式横穴墓出土鉄器についての一考察
新屋敷　久美子

南部九州における中世瓦質土器の蛍光X線分析
黒木　梨絵

植物質資料からみた南九州
－天神段遺跡を中心に－
深川　祐子

全点ドット調査の有効性と問題点
－1970年代から1990年代の調査を中心に－
立神　倫史

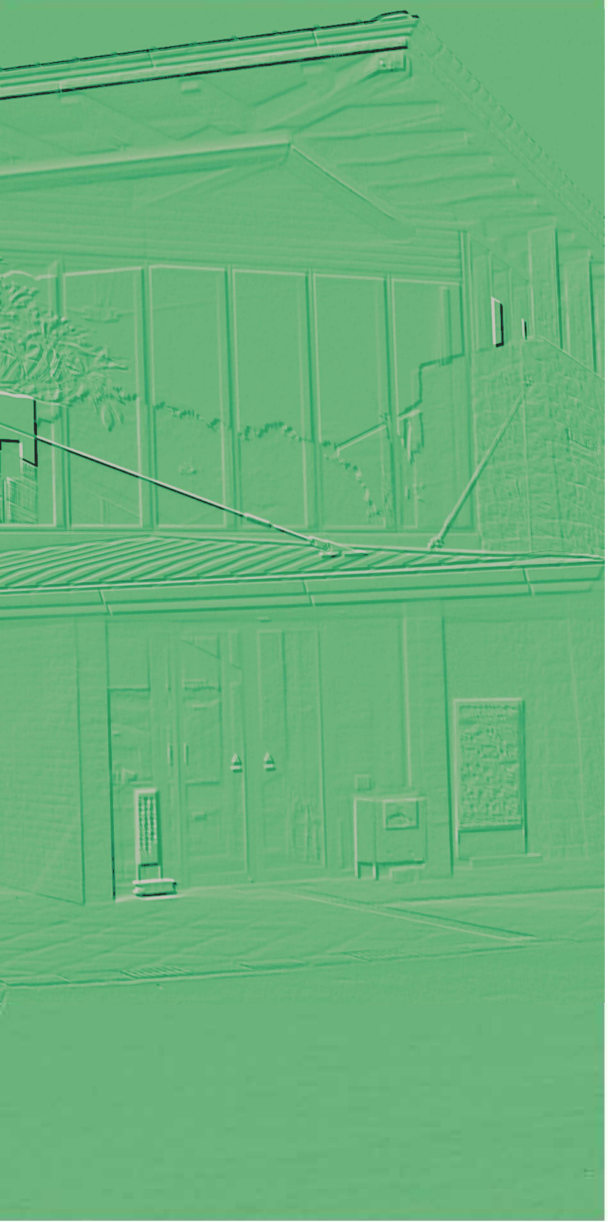
宮ノ上遺跡の縄文時代後期前半の土器群について
長野　眞一

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡
中村　耕治

郷土教育と考古学
－相川日出雄の埋蔵文化財を活用した教育実践から学ぶこと－
吉元　輝幸

《資料紹介》

南部九州における古代のカマドに関する覚え書き
上床　真



平成26年度　年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2015.10

『縄文の森から』 第８号　目　次

≪研究ノート≫

古墳時代肝属平野における地下式横穴墓出土鉄器についての考察

新屋敷　久美子　・・・・・ 1

南部九州における中世瓦質土器の蛍光Ｘ線分析

黒木　梨絵　・・・・・ 7

植物質資料からみた南部九州
― 天神段遺跡を中心に ―

深川　祐子　・・・・・19

全点ドット調査の有効性と問題点
― 1970 年代から 1990 年代の調査を中心に ―

立神　倫史　・・・・・33

宮ノ上遺跡の縄文時代後期前半の土器群について

長野　眞一　・・・・・47

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡

中村　耕治　・・・・・53

郷土教育と考古学
―相田日出雄の埋蔵文化財を活用した教育実践から学ぶこと―

吉元　輝幸　・・・・・65

≪資料紹介≫

南部九州における古代のカマドに関する覚え書き

上床　　真　・・・・・77

平成２６年度年報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡

中村　耕治

The Riturai site to Be Affected Tumulus In Osumi Aria

Nakamura　Kouji

要旨

人の死に関しては，現在でも恐れと穢れが付きまとっている。そのことは，原始・古代においてはもっと強かったことと思われる。縄文時代の抱石葬・甕被り葬や，埋葬の一部に係わる土器の一部を割ったり，穴を穿ったり等と枚挙にいとまがない。つい最近までも出棺の際，茶碗を割って送り出す風習があったようである。このような死に対する祭祀について，古墳時代の大隅地域における葬送儀礼や祭祀に係わる事例が増加している。そこで，大隅地域を中心に取り上げて見ることとした。

キーワード　古墳時代，大隅地域，古墳，地下式横穴墓，葬送儀礼，供献，封印

１　はじめに

鹿児島県では，東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進められている。特に大隅地域では，毎年多くの遺跡が調査されており，さまざまな成果が上げられている。古墳時代においても立小野堀遺跡・町田堀遺跡で数多くの地下式横穴墓が発見調査され，葬送儀礼等について新しい資料が得られてきている。そこで、これまでの資料も顧みて，大隅地域における古墳時代の祭祀・葬送儀礼について考えることにする。

２　祭祀・葬送儀礼について

これまでの祭祀遺跡を見てみると，以下の５タイプに分けられるようである。

⑴　葬送に係わる祭祀を行った広場（土師器や須恵器が多く置かれる。時には鉄器が置かれることもある）。

⑵　土器を破砕する祭祀(土器破砕祭祀)。

⑶　鉄器や赤色顔料で羨道部付近を封印する祭祀。

⑷　土器及び須恵器を竪坑上部や当時の地上に供える祭祀。

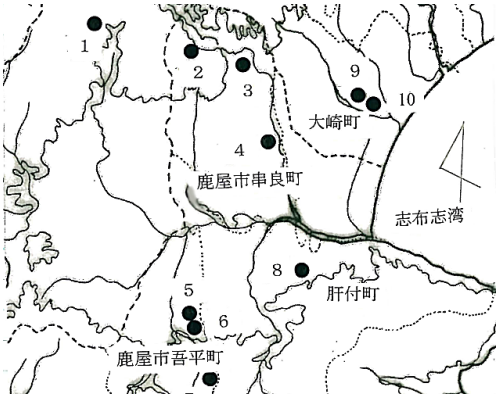
⑸　その他

土塊による羨門封鎖。

⑴　葬送に係る祭祀を行った広場

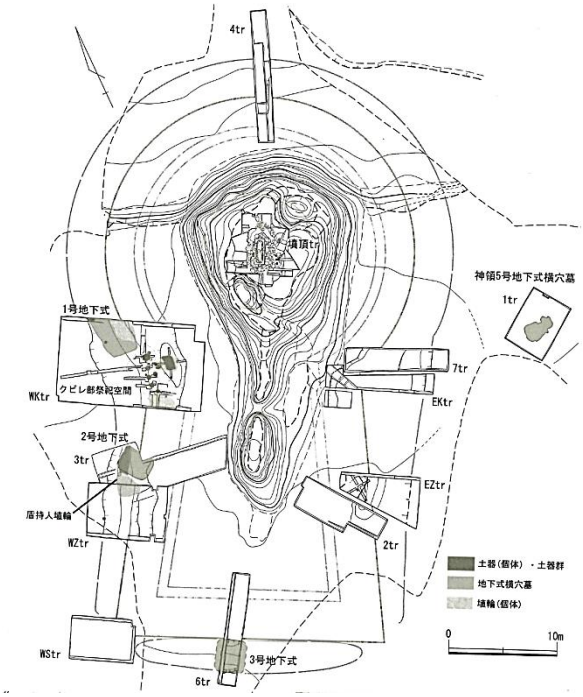
①　神領 10 号墳における周溝内祭祀（曽於郡大崎町）

2000 年に鹿児島大学総合博物館の橋本達也准教授により調査が行われた。調査は，主体部の確認と周溝確認



第１図　古墳位置図

番号	遺　跡	所　在　地
1	祓　川	鹿屋市祓川
2	立小野堀	鹿屋市串良町
3	野田堀	鹿屋市串良町
4	岡　崎	鹿屋市串良町
5	名主原	鹿屋市吾平町
6	宮ノ上	鹿屋市吾平町
7	中　尾	鹿屋市吾平町
8	塚　崎	肝属郡肝付町
9	下　堀	曽於郡大崎町
１０	神　領	曽於郡大崎町



第２図　神嶺１０号墳

が主であった。

周溝内では地下式横穴墓の竪坑が検出された。近年高塚墳の周溝部に竪坑を掘る地下式横穴墓の検出が相次いでいるが，神領古墳群でも同様の結果が得られた。また，墳丘の西側くびれ部に近い周溝内で土師器と須恵器（市場南組窯跡）が大量に出土し，ここで 10 号古墳の葬送に係わる祭祀が行われたものと思われる。

②　岡崎 18 号墳２号地下式横穴墓における竪坑上部の須恵器甕及び東側の祭祀広場（鹿屋市串良町）

2002 年に鹿児島大学総合研究博物館橋本達也准教授により調査が行われたものである。18 号墳は現状で径約 18.8m，墳丘の高さは 2.4mである。地中レーダー探査の結果，墳端部に４基の地下式横穴墓が存在することが確認されている。墳丘の東側において１号・２号地下式横穴墓の竪坑部が検出され，周辺に須恵器・土師器・鉄鏃・花崗岩片が散乱している。祭祀空間と考えられる状態で須恵器や土師器を意図的に破砕したものであろう。この空間は，台地の東端に近い所で唐仁古墳群が望める場所であることも何か意味するものではないだろうか。調査者の橋本氏は２号地下式横穴墓のみの祭祀空間か１号・２号地下式横穴墓に伴うものか，18 号墳全体に関わる祭祀かは解釈の余地があるものとしている。

また，２号地下式横穴墓の竪坑上面の東コーナーに須恵器の大甕２個体が設置されている。これは，竪坑を埋め戻した後に行われた供献祭祀と考えられている。

③　中尾地下式横穴墓の祭祀広場（鹿屋市吾平町）

中尾地下式横穴墓は平成８年度・９年度・16 年度の３回に渡って吾平町教育委員会により調査が行われ，８基の地下式横穴墓が発見されている。終末期の地下式横穴墓と思われるもので，心葉文が描かれた銀象眼装太刀や円筒太刀・鈴・耳環等の副葬品が出土している。地下式横穴墓は円形状に配置され中央部に広場が見られる。その広場から須恵器の甕の破砕片が集中して出土し，祭祀広場としてとらえられるものである。

④　名主原地下式横穴群の祭祀広場（鹿屋市吾平町）

2004 年度に吾平町教育委員会が調査を行い６基の地下式横穴墓が確認されているが，その周辺において６点の高坏と長頸壺が出土している。いずれも供献土器と考えられるものである。

⑤　下堀地下式横穴群の祭祀広場（曽於郡大崎町）

2002 年度に大崎町教育委員会により調査が行われたものである。７基の地下式横穴墓が調査され，７号地下式横穴墓では竪坑から羨道上部にかけて盛り土が確認された。３号・４号地下式横穴墓の南側に土坑があり，その埋土内から高坏や坩が完形の状態で出土し，意図的に埋めた祭祀に関わるものと判断されている。ただ，土器の年代観と地下式横穴墓の年代観の検討が必要と思われる。

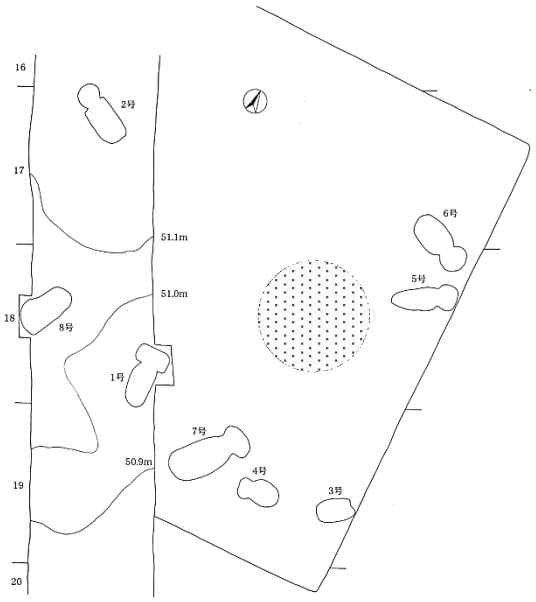
⑥　町田堀遺跡における祭祀空間

町田堀地下式横穴墓群の中の 66 号墓・41 号墓・56 号墓・75 号墓・51 号墓に囲まれた空間（10×８m）から高坏３点・坩３点・鉄鏃１点・剣１点が出土している。この空間には地下式横穴墓等の遺構は無く，土器・鉄器を供献する祭祀広場と考えられる。

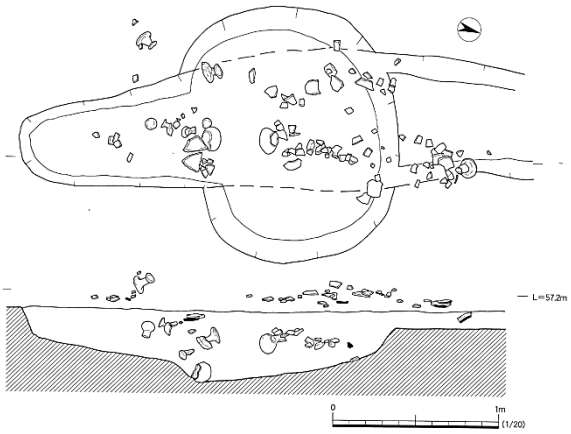
⑵　土器破砕祭祀

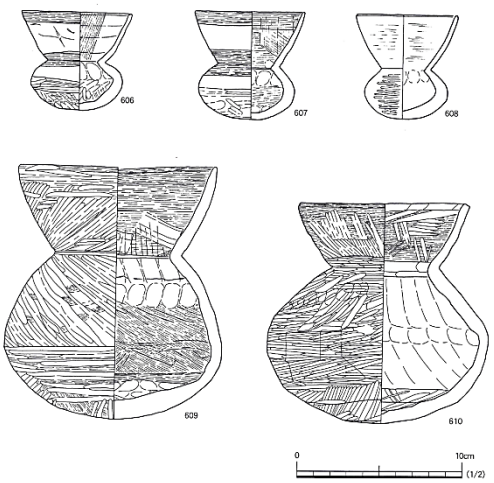
①　岡崎４号墳墳頂部主体部上部の土師器破砕（鹿屋市串良町）

1986 年串良町教育委員会により４号墳の確認調査が実施されたものである。調査は主体部の有無及び周溝確認を目的とした。その結果，墳頂部において主体部と思われる掘り込み（木棺直葬と思われる）が検出された。さらにその上部において破砕された土師器の高坏（大型高坏３個体・小型高坏７個体），口縁部と底部を欠損した壺が置かれていた。土師器を破砕する行為が，縄文時代晩期に埋設された深鉢の一部を打ち欠くことや，近年まで見られた火葬場へ出棺する時に茶碗を割る行為と同

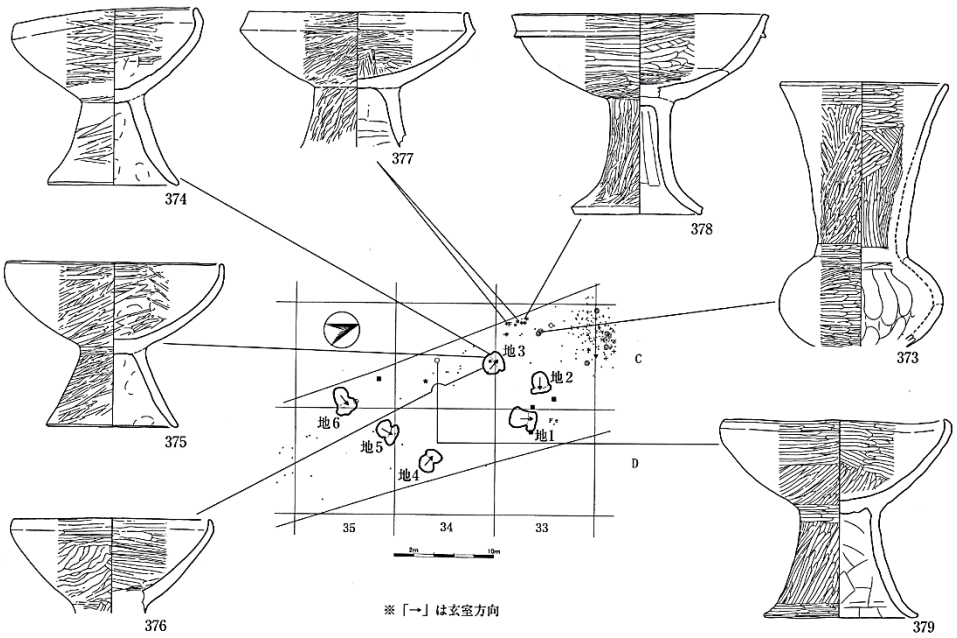


第３図　中尾地 下式横穴墓墳

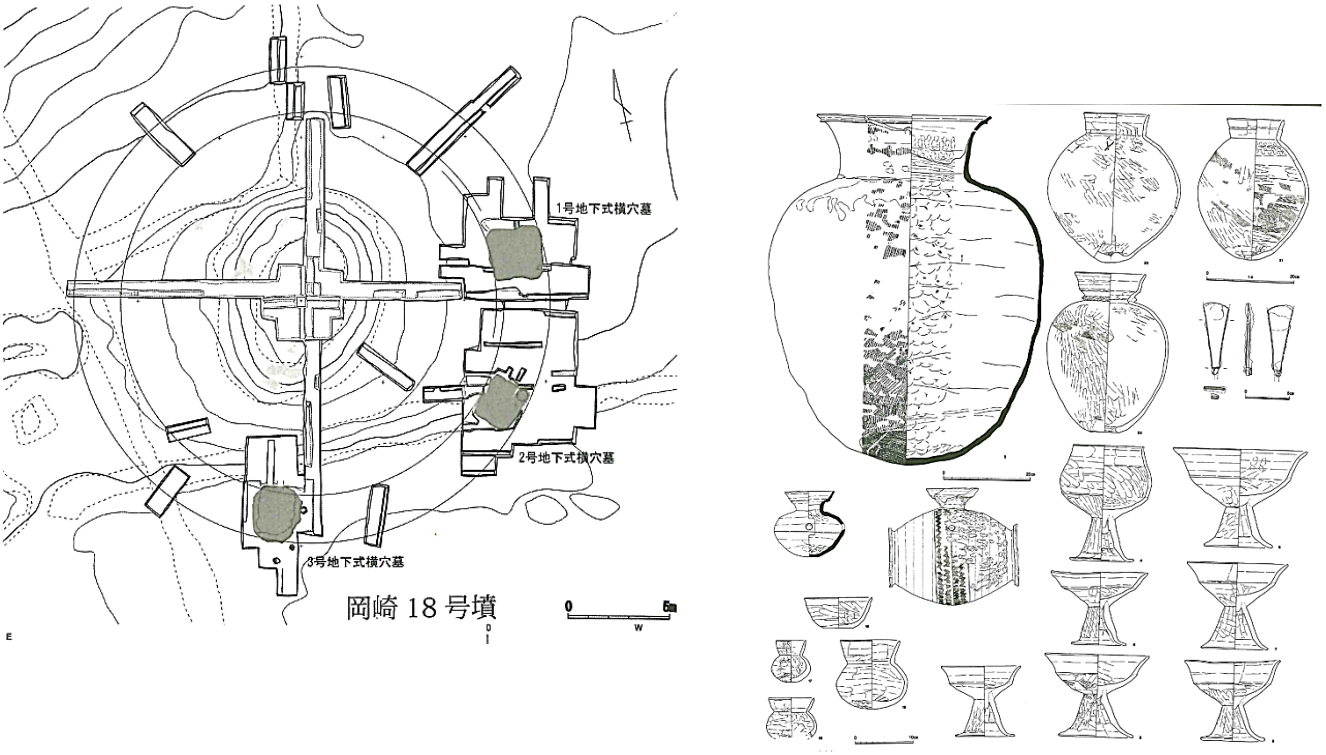




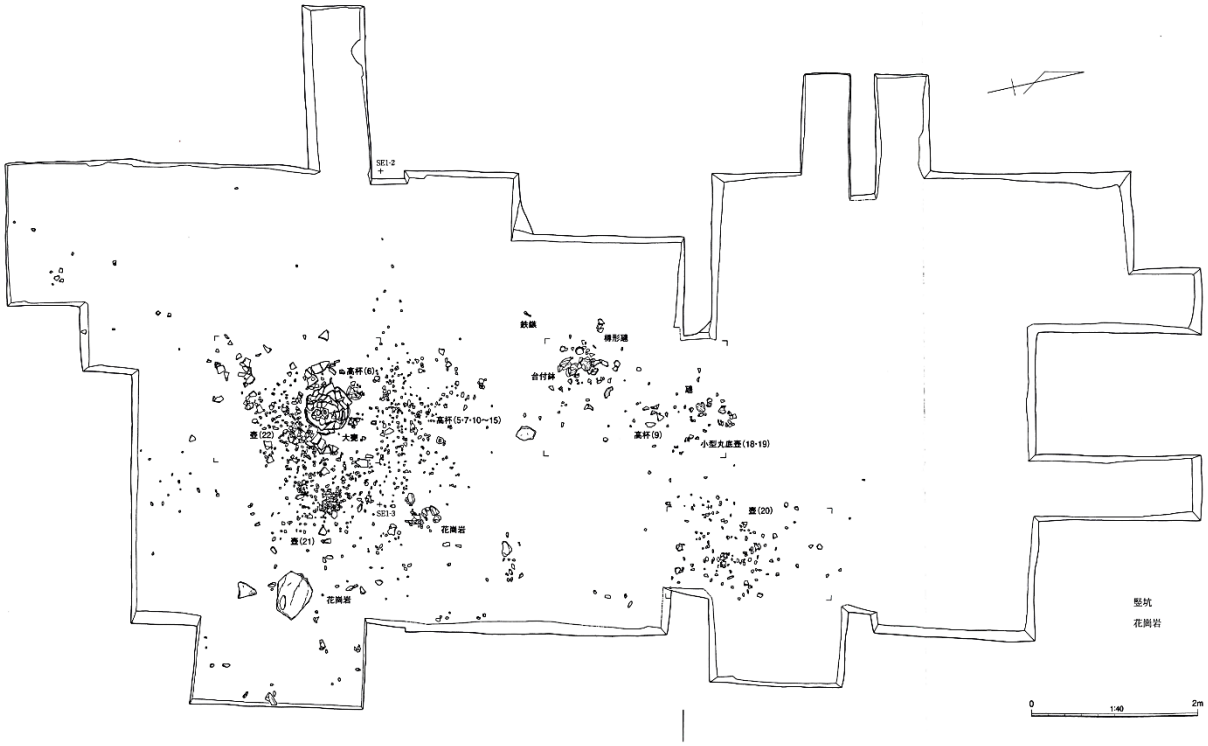
第５図　下堀遺跡祭祀土抗・出土遺物



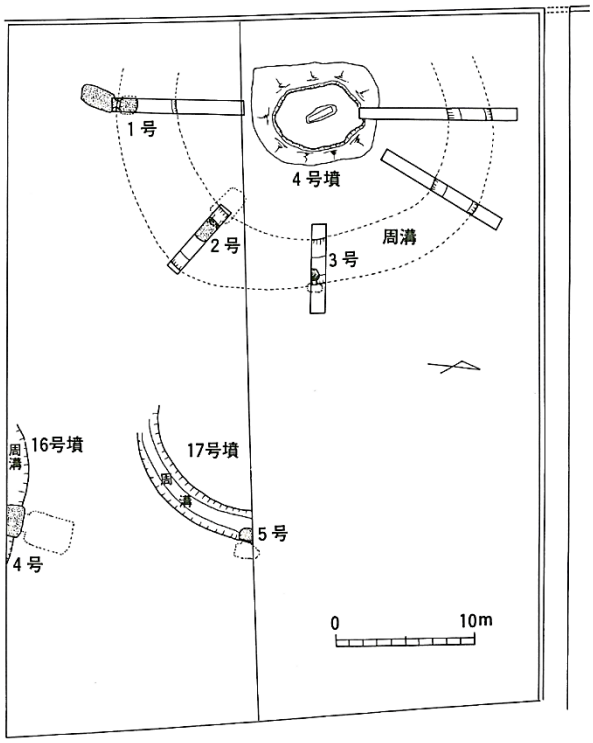
第４図　名主原遺跡祭祀空間・出土遺物



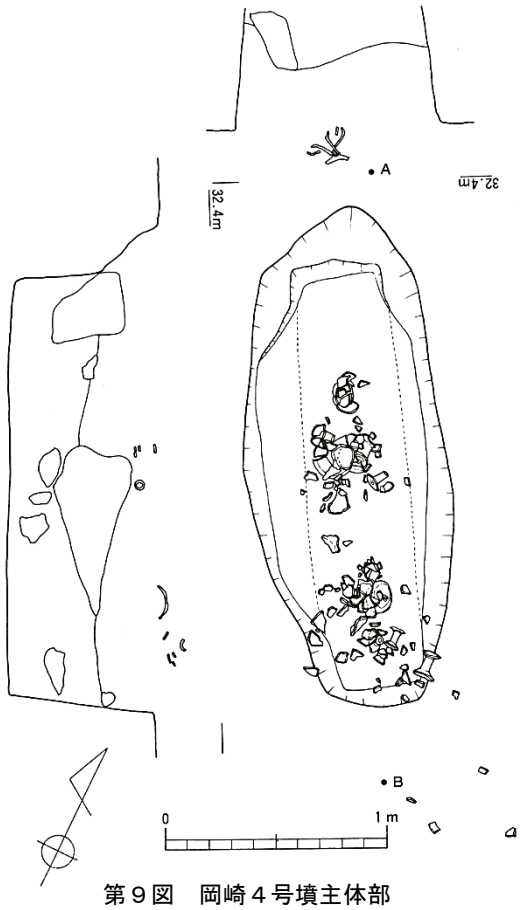
第６図　岡崎１７８号墳祭祀空間・出土遺物



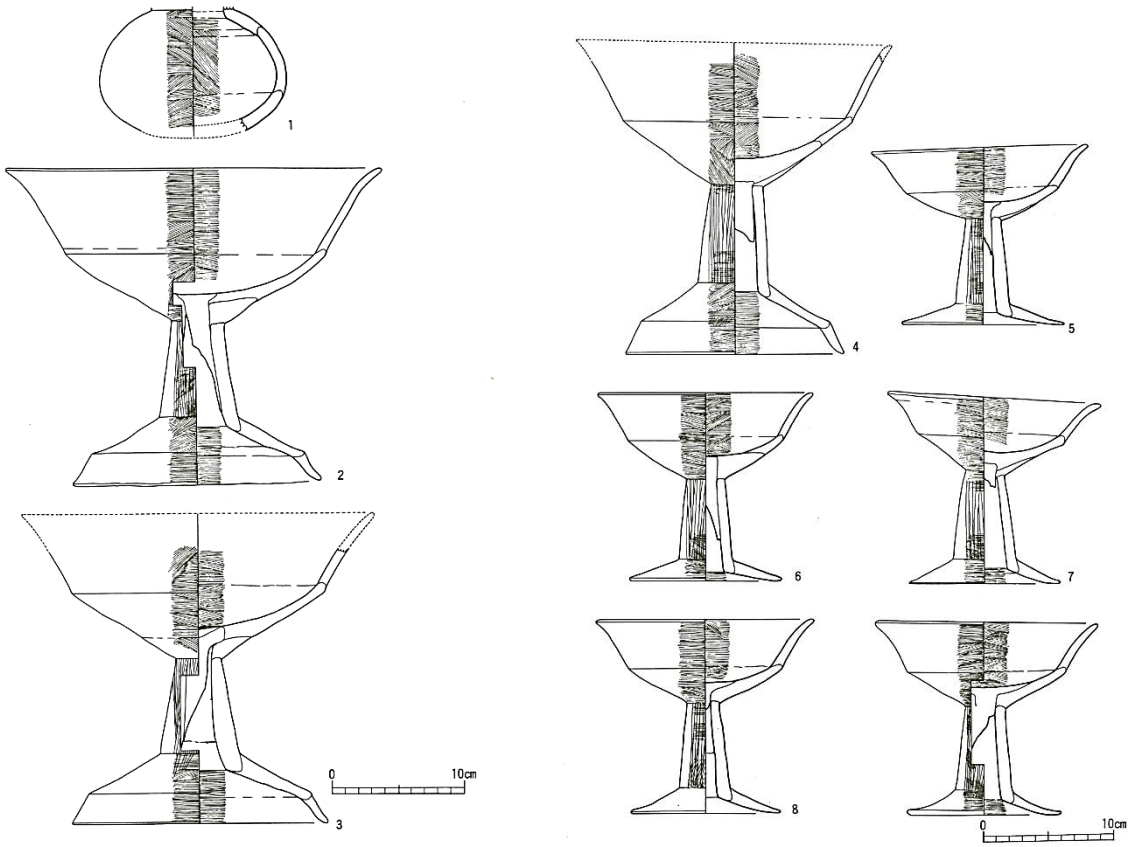
第７図　岡崎１８号墳の東側の祭祀空間遺物出土状況



第８図　岡崎４号・１６号・１７号群



第９図　岡崎４号墳主体部



第１０図　岡崎４号墳主体部上位の遺物

じように死に対する穢れを払うような意味を持つのか興味深いものである。

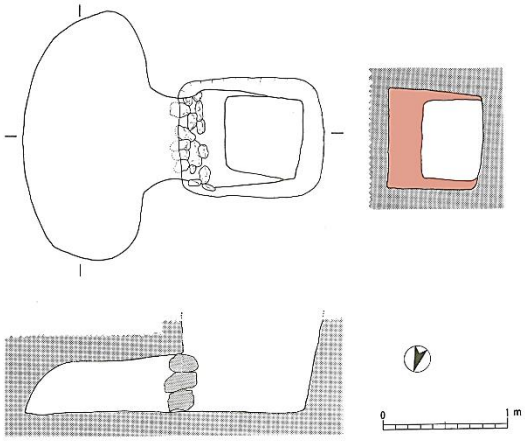
② 立小野堀地下式横穴墓群の祭祀広場

立小野堀地下式横穴墓群は，東九州自動車道建設に伴って 2009 年度から調査が行われている。これまでに 190 基以上の地下式横穴墓と土坑墓５基が調査されている。地下式横穴墓の周辺等から二重口縁壺や高坏・坩等が破砕された状態で出土している箇所が数多く見られる。まだ調査が継続しているため詳細はつかめないが，墓のない空間で検出されるものが大半で，葬送儀礼が行われたものと考えられる。ただ，単体の地下式横穴のためか，複数の地下式横穴墓のためのものなのかいまの段階では不明である。

⑶ 羨道部付近での封印

① 宮ノ上 14 号地下式横穴墓の竪坑羨門を有する面の赤色顔料塗布（鹿屋市吾平町）

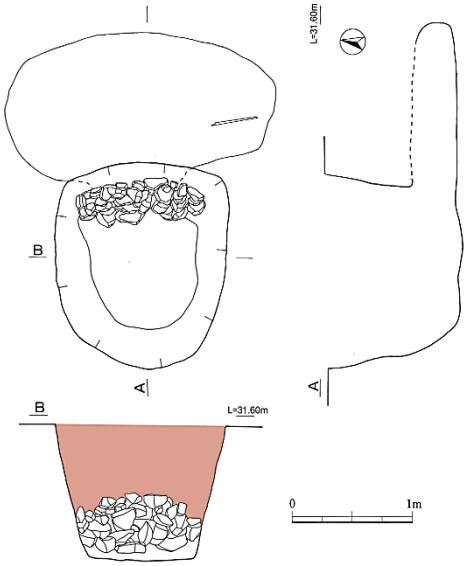
1987 年度に吾平町教育委員会により２基の地下式横穴墓の調査が行われたもので，そのうちの 14 号地下式横穴墓は，竪坑の規模が 1.17×0.96ｍの長方形であるが，底面はやや小さくなっている。羨道部の閉塞は土塊によるものであるが，玄室側のほぼ全面に赤色顔料（丹？）が塗布されている。被葬者を封印する意味合いを想定させられる。



第 11 図　宮ノ上１４号地下式横穴墓

② 名主原６号地下式横穴墓の竪坑羨門を有する面の赤色顔料塗布（鹿屋市吾平町）

2004 年度に吾平町教育委員会により調査が行われたもので，６基の地下式横穴墓が調査された。６号地下式横穴墓は竪坑の規模が 1.7×1.39ｍ,深さ 1.12ｍである。羨道部閉塞は土塊によるものであるが，玄室側の全面に赤色顔料（丹？）が塗布されている。宮ノ上 14 号地下式横穴墓と同様被葬者を封印するかのような状況である。



第１２図　名主原６号地下式横穴墓

③ 岡崎１号地下式横穴墓の羨道上部におかれた赤色顔料の玉（丹玉）（鹿屋市串良町）

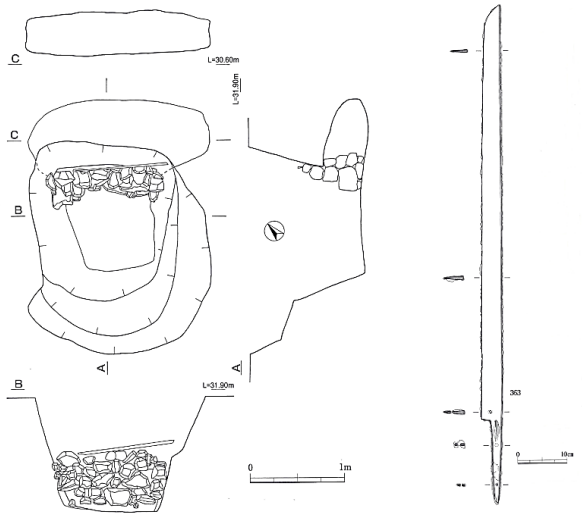
1986 年串良町教育委員会により確認調査が実施されたものである。１号地下式横穴墓は４号墳の周溝に竪坑を掘って造られたもので，人骨１体と鉄剣・鑿状鉄器・槍鉋・鉄族・砥石等多くの副葬品を有する。羨道部の閉塞は木質で塞いだ上に粘土板を被せたものと思われる。羨門の上部中央に径５㎝の朱玉（丹？）２個を貼り付けた状況である。名主原６号地下式横穴墓の赤色顔料塗布と同様に封印を意識したものと思われる。

④ 立小野堀地下式横穴墓（126 墓）の羨道部天井に赤色顔料が塗布（鹿屋市串良町）

立小野堀地下式横穴墓群の 126 号墓は，竪坑で追葬が行われた痕跡が認められたもので，立小野堀地下式横穴墓群の中では最大級の規模である。羨道は長さ約 60 ㎝もありしっかりしている。羨道部の竪坑側の天井部に赤色顔料を約 10 ㎝幅で塗布している。この行為も封印を意図したものと思われる。

⑤ 町田堀遺跡(75 号墓）の羨門部の上位に赤色顔料を塗布（鹿屋市串良町）

町田堀地下式横穴墓群中の 75 号墓は，羨門の上位に径５㎝の範囲に赤色顔料が塗布されている。これも封印を意図したものであろう。



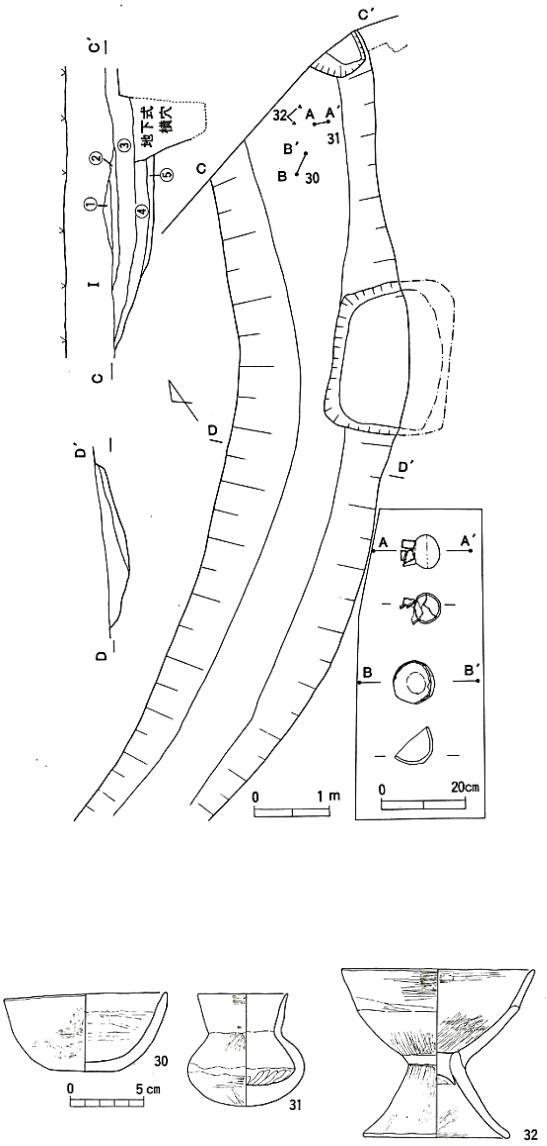
第１３図　名主原１号地下式横穴墓

⑥　名主原１号地下式横穴墓の羨道上部に置かれた直刀（鹿屋市吾平町）

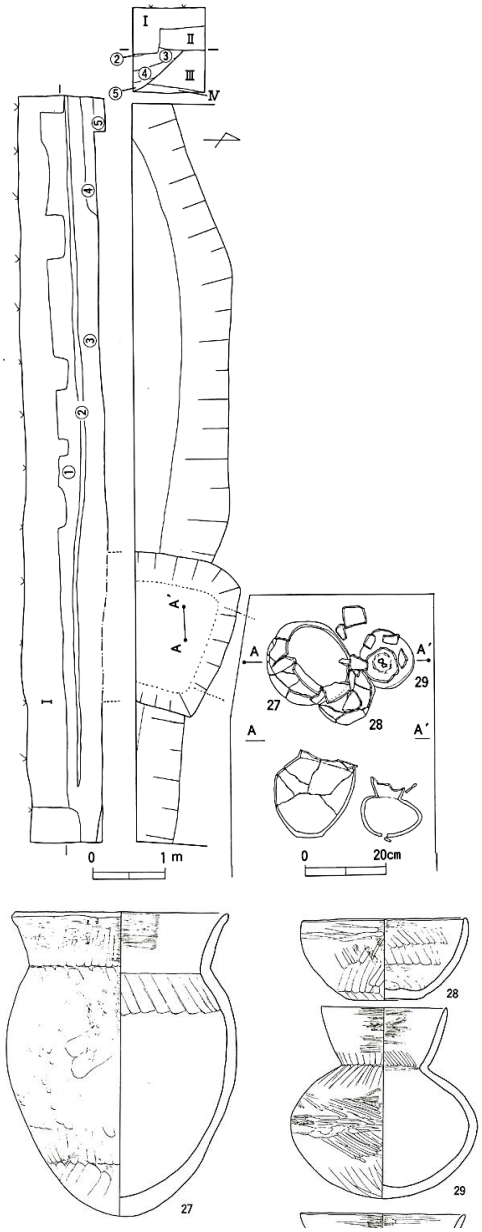
名主原１号地下式横穴墓は竪坑 2.2×1.82m，深さ 1.2 mの不整形なものである。羨道部閉塞は土塊によるもので，積み上げられた土塊の羨門側に全長 101.3 ㎝の直刀１振が刃部を下にして据えられている。まさに，直刀の力により死者を封印したかのように置かれていた。

⑦　町田堀遺跡(㊿号墓)の羨門上位に置かれた鉄剣２本（鹿屋市串良町）

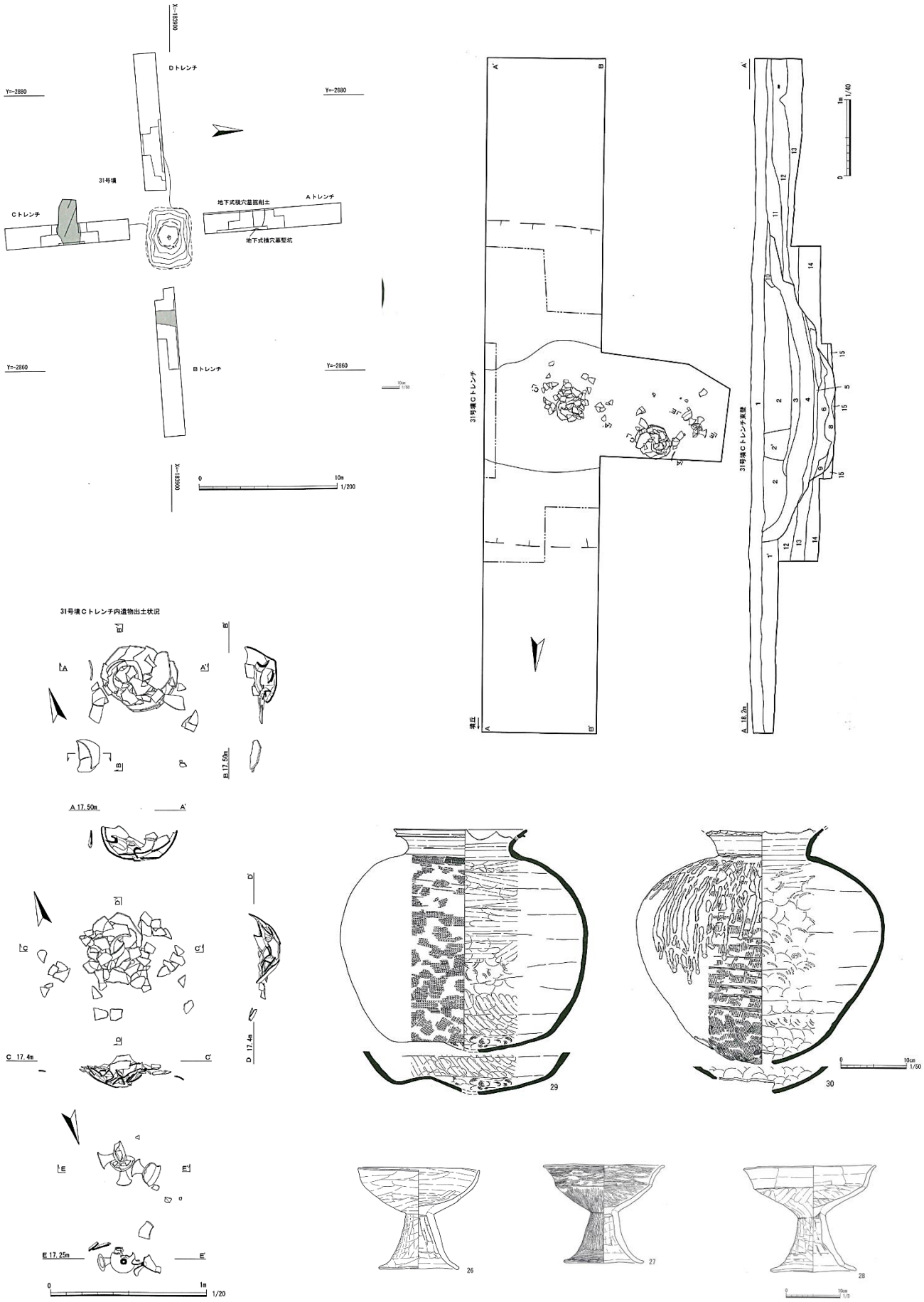
町田堀地下式横穴墓群中の㊿号墓は，羨門の上位に長さ約 40 ㎝の剣を２本置いてある。これも封印を意図したものと思われる。



第１４図　岡崎１６号墳・４号地下式横穴墓及び供献土器



第１５図　岡崎１７号墳・５号地下式横穴墓及び供献土器



第１６図　塚崎３３１号墳・周溝内地下式横穴墓及び供献土器

⑷　供献祭祀

①　岡崎４号・５号地下式横穴墓の竪坑上部および周辺の土師器（鹿屋市串良町）

1988 年串良町教育委員会により調査が行われたものである。４号墳の東側の確認調査であったが，墳丘が削平された円墳の周溝が２基発見された。17 号墳・18 号墳とされたものであるが，それぞれの周溝内に地下式横穴墓の竪坑が掘り込まれている。16 号に伴うものは４号地下式横穴墓としたが竪坑上面に土師器の甕・鉢・小型丸底壺の３点が供献されている。また，17 号墓に伴うものは５号地下式横穴墓としたが，竪坑上面ではないが，近接した位置に鉢・大型丸底壺・高坏の３点が出土しており，５号地下式横穴墓に供献されたものと考えられる。このような土器供献については，岡崎 18 号墳２号地下式横穴墓の須恵器大甕，および塚崎 31 号墳の周溝に竪坑を有する地下式横穴墓の掘削土の上部に須恵器及び土師器等が置かれた類例がみられる。

②　塚崎 31 号墳の周溝内に竪坑を有すると思われる地下式横穴墓の掘削土上部の須恵　器及び土師器（肝属郡肝付町）

31 号墳の周溝確認調査で出土したものである。墳丘の北側のトレンチで周溝内に竪坑が確認され，その西側に地下式横穴墓の掘削土の広がりが確認されている。南側のトレンチでは竪坑は確認されていないが，北側トレンチと同様の地下式横穴墓の掘削土と思われる土の広がりが確認され，その上に須恵器の甕２個体と土師器の高坏３個体が出土している。須恵器甕は陶邑産と愛媛県市場南組窯産のものと思われるもので，初期須恵器の TK216 段階と考えられる。

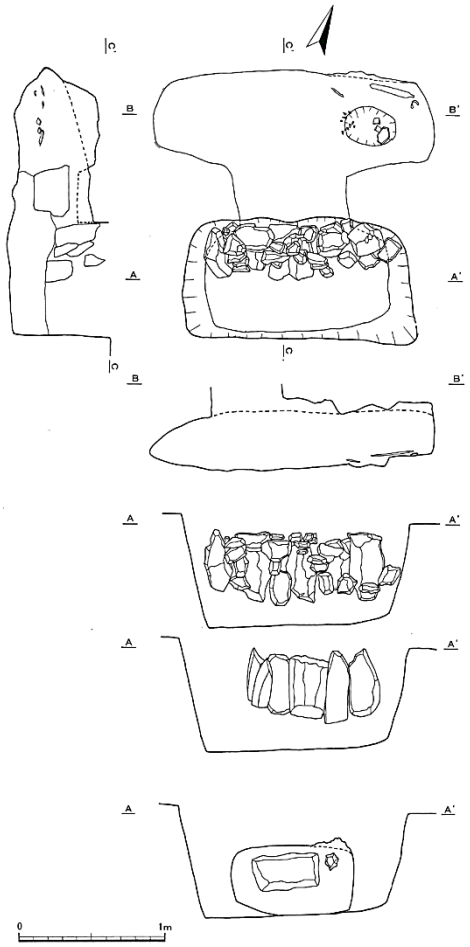
③　祓川地下式横穴墓の供献土器（鹿屋市祓川）

2005 年度に鹿屋市教育委員会により調査がおこなわれたものである。1 号供献土器は 2 号・11 号・32 号地下式横穴墓の竪坑の空間で検出された。2 号供献土器は 19 号・21 号地下式横穴墓の南側で検出された。3 号供献土器は 23 号・25 号・29 号地下式横穴墓の空間および竪坑上面で検出された。４号供献土器は 7 号と 27 号地下式横穴墓の中間で検出された。6 号供献土器は調査区のほぼ中央で独立して検出された。1 号～５号供献土器はいずれも地下式横穴墓の周辺で破砕された状況であるに対して６号供献土器は独立しており，完形に近い状態で検出されている。１～５号供献土器と６号供献土器では，祭祀の内容が異なるようである。１～５号供献土器については，破砕する行為が伴っている。また，地下式横穴墓の竪坑周辺や一部竪坑上面に架かっている。このような葬送儀礼が複数の地下式横穴墓に関わるのか，単一の地下式横穴墓のみなのかは今後の課題であろう。また，６号供献土器は遺跡のほぼ中央にあり，破砕されていない状況で地下式横穴墓群全体に関わる祭祀の可能性を含んでいる。土器は壺・高坏・坩・はそう・須恵器甕等で,煮炊き用の甕が見られないのが特徴である。壺では刻み目突帯文を巡らす二重口縁の大型壺が目立つ。二重口縁壺は他の地下式横穴墓群でもよく見られる傾向がある。

⑸　その他

①　塚崎古墳群 13 号地下式横穴墓における羨道部に土塊を置く（肝属郡肝付町）

13 号地下式横穴墓は，平入りタイプで，羨道の閉塞は竪坑底面から約 30 ㎝を硬くしめて，その上に角礫を立て掛けるようにして置き塞いである。また，角礫を覆う様に大小の土塊で目詰めしてある。さらに羨道部の真下に



第１７図　塚崎古墳群 13 号地下式横穴墓

縦 25 ㎝，横 45 ㎝，奥行き 30 ㎝の直方体の土塊が据えられている。これも葬られた人を封印する意味合いがあるものと考えられる。

３　結語

大隅地域の古墳時代における葬送儀礼や恐れによると思われる封印の状況の例を取り上げてきたが，列挙するにとどまってしまった感は否めず，古墳時代人の死後感とかまでに至らなかった。今後の課題としておきたい。

立小野堀遺跡及び町田堀遺跡については近年の調査であり，報告書が刊行されていないため図面等が提示できなかった。報告者が刊行されたら参考にしていただければよいのではないかと考える。

【参考・引用文献】

橋本達也 2007・2008・.2009「神領１０号墳発掘調査１～３－大隅のフィールド調査」鹿児島大学総合研究博物館

橋本達也 2008「大隅串良，岡崎古墳群の研究」鹿児島大学総合研究博物館

吾平町教育員会 2005『中尾遺跡Ⅳ』吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書 19

鹿屋市教育委員会 2008『名主原遺跡』鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 84

大崎町教育委員会 2005『下堀遺跡・細山田段遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘踏査報告書串良町

串良町教育員会 1986『岡崎４号墳・１号地下式横穴』串良町埋蔵文化財発掘調査報告書１

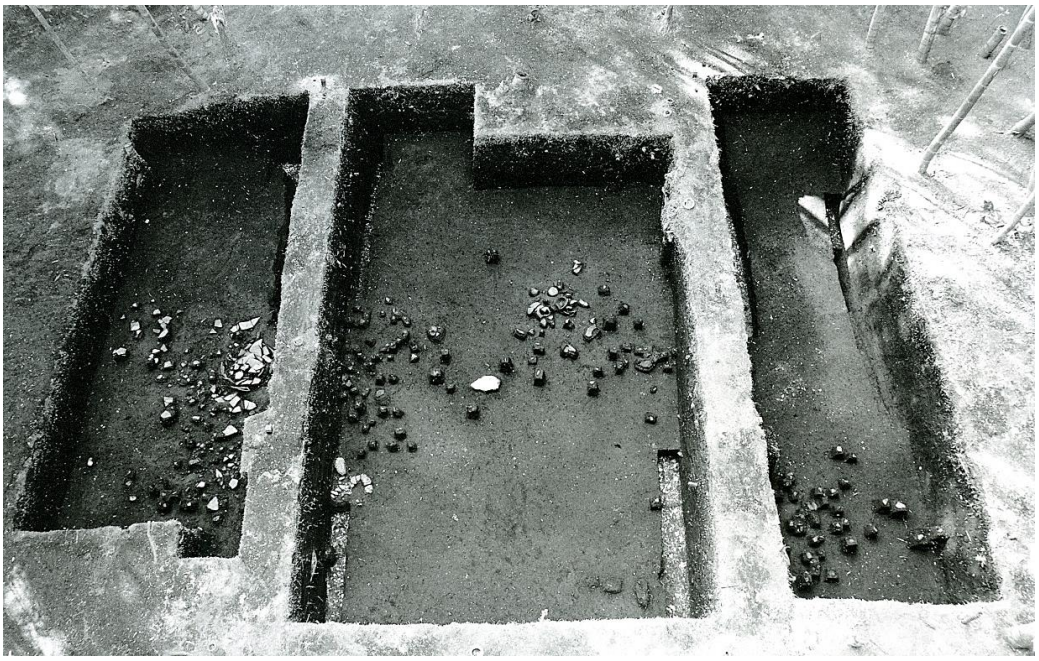
吾平町教育委員会 1987『宮ノ上地下式横穴墓横穴群』吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書２

串良町教育委員会 199『岡崎古墳群』串良町発掘調査報告書３

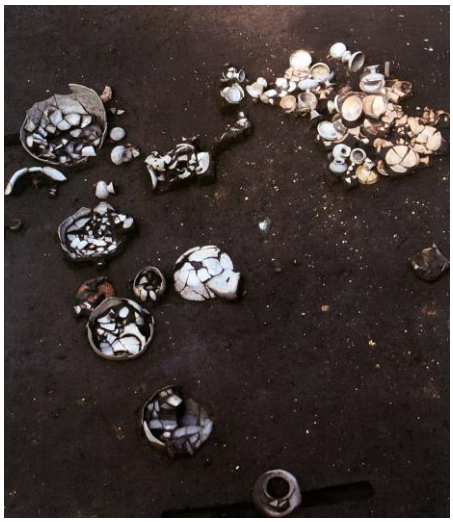
肝付町教育委員会 2009『塚崎古墳群』肝付町発掘調査報告書 11

鹿屋市教育委員会 2007『薬師堂の古墳・祓川地下式横穴群』鹿屋市発掘調査報告書 83

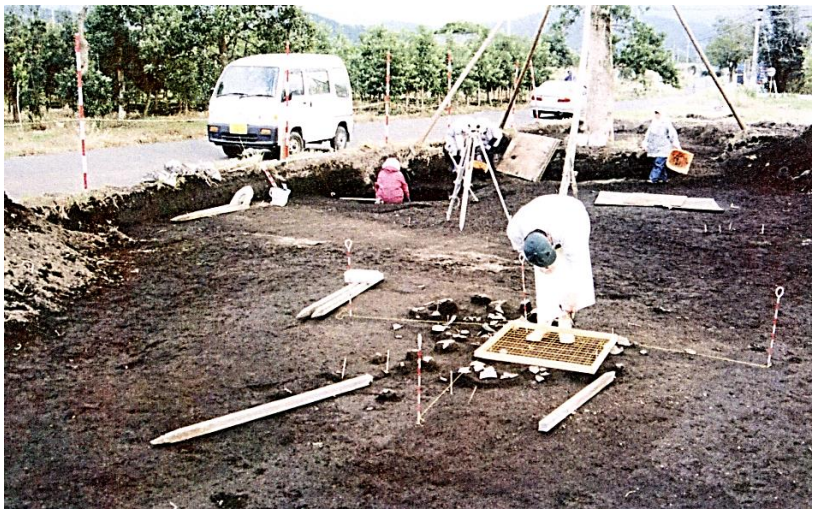
名主原１号地下式横穴墓鉄剣出土状況



岡崎１８号墳東トレンチ祭祀空間・遺物出土状況



神領１０号墳くびれ部祭祀空間



中尾地下式横穴群祭祀空間実測風景

塚崎１３号地下式横穴墓羨道部封鎖状況

鹿児島県立埋蔵文化財センター
研究紀要・年報 縄文の森から 第8号

発行年月　２０１５年１０月
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL　0995-48-5811
E-mail　maibun@jomon-no-mori.jp
URL　http://www.jomon-no-mori.jp
印　　刷　有限会社　国分新生社印刷
〒899-4301　鹿児島県霧島市国分重久627-1

Bulletion of Kagoshima
Prefectural Archaeological Center

From JOMON NO MORI

研究紀要・年報　縄文の森から　第8号

二〇一五　鹿児島県立埋蔵文化財センター

No.8　CONTENTS

《Study Note》

Ironware excavated from Underground Carridor-style Brial Chambers in the Kofun jar,Kimotsuki Plain
Shinyashiki Kumiko

X-ray fluorescence analysis of Medieval pottery in Southern Kyusyu,Japan
Kuroki Rie

Ancient South Kyusyu considered from vegetable matters with focus on Tenjindan site
Fukagawa Yuko

Validity and Problems of All Dot Excavation
Tategami Michifumi

Miyanoue site's pottery group in the first half of the end of the Jomon
Nagano Shinichi

The Ritural site to Be Affected Tumulus In Osumi Aria
Nakamura Kouji

Education for local patriotism and archeology
Yoshimoto Teruyuki

《Materials of Archaeological Research》

Introducing Chinaware from Southeast Asia excavated in Kamizuru site by the Manose river lower stream
Uwatoko Makoto

Annual of Kagoshima Prefectual Archaeological Center of the 26th year in Heisei

Kagoshima Prefectural Archaeological Center
October　2015